

春山トレ 西穂高岳

日程:2010年4月17~18日(土・日)

メンバー:L田中、SL奥平、齋藤、野澤、橋立、鋤持(記録)

16日 9:30 新穂高岳ロープウェイ~10:00 西穂高口~12:00 西穂山荘

17日 6:20 西穂山荘~8:15 独標~10:00 西穂山荘 11:00~12:00 西穂高口

1/25000 地形図:穂高岳

積雪期の北アルプスは初めてであったが、天候に味方され、私にとっては苦しいながらも楽しく貴重な経験が出来た。

15日夜、車2台に分かれて出発。雨。橋立さんの車で先行したが、4月中旬には異例の寒さで山梨県に入ると雪に変わった。小淵沢から先はチェーン規制が引かれ、既にノーマルタイヤに履き替えていたため双葉SAで足止めとなった。この先進めないようであれば、八ヶ岳か奥秩父に転進かと思われた。しかし、係員によるタイヤチェックの末、一度中央道から下ろされたが、橋立さんの運転テクニックのおかげもあって無事松本ICまでたどり着いた。路面の雪は予想以上で、ある意味今回の行程で一番どきどきした。新島々駅のちょっと先にある「安曇村の駅アルプスの郷」に着いたのは2時を回っていたと思う。テントの建て方が分からず、皆でだいぶ苦戦した。

翌日は新穂高温泉に車を止め、ロープウェイであがる。ガスのため展望はきかなか

った。西穂山荘までは樹林帯のゆるい上り坂。全く皆のペースについてゆけず、初めから大して無い自信をさらに失う。山荘までの距離が短かったことがせめてもの救いだった。

山荘付近で耐風姿勢や強風時のテント設営、トラバース歩行、滑落停止、ビレイなどのトレーニングを行う。テント設営では立派な風除けブロックが完成した。スタンディングビレイではよろけてしまった。隣では別パーティーが雪洞を掘っていて、時折、雲の間から春の陽が射しこんだ西穂山荘周辺では大勢の登山者が春山を楽しんでいた。



夜は田中さんによる、肉野菜炒め、卵スープ、ごはん。おいしい。自分の普段の夕飯よりも豪勢だったような。

18日は、前日とは打って変わって快晴。独標目指してピストン。少し登っただけで風を受け、寒いので目出帽を取り出す。氷化した雪面など、歩いたことがない場面が多々登場し、その都度皆がアイゼンの使い方や歩き方を教えてくれる。皆がごく普通

に通過していく、ちょっと岩が露出した箇所が、前爪を使ったことがない私には、すごく怖い。なぜこんな金属の先っぽだけで立てるのだろう。つい、岩にしがみついてしまう。今まで一般コースの岩場で怖いと思ったことはほとんどないが、今回は怖かった。

途中、奥平さんのアイゼンが何度か外れてしまい、奥平さんは独標の手前のコルで待機となってしまったが、残りの5人で独標に到着。混雑していたのでさっと写真を撮って、少し休んで下山した。独標からクサリ場までは私だけロープを出してもらった。要所要所で齋藤さんが先回りしてアドバイスをくれたり、見守ってくれた。

途中の斜面では、前のめり転倒の滑落停止、ピッケルで足場を作りながらの歩行といったトレーニングも行った。のろのろと終始のろまな私は、緑色のヘルメットをかぶっていたのでカメそのものだった。

テントに戻ると、早々に撤収し少しくつろいでから下山開始。木の間から槍の穂先が見えた。ロープウェイ乗り場周辺は観光客で賑わっていた。

ロープウェイの真下、千石尾根を歩いて下山の予定だったが、登山道の入口らしき場所に「下山禁止」の大きな立看板があり、田中さんが確認したところやっぱり駄目とのことで、ロープウェイに決定。往きの切符を見せ、往復適用の交渉を試みたが願いは叶わず、しぶしぶまた片道運賃を払うが

仕方ない。晴れていたで遠くまでいい眺めだった。

帰り、R158 沿いの梓川を渡ったところにある「せせらぎの湯」に寄った。こじんまりとした日帰り施設だが、かけながしの露天風呂、空いている、500円と山帰りには魅力的な温泉だった。そのあと、松本 IC 手前のラーメン屋「とん太」で空腹を満たし、岐路。渋滞のため、御坂峠ルートで帰った。

バテバテだった今回を振り返る。“体力がないのは女だから”では通用しない。ピストンですらついて行けないのはショックだった。続けたいならもっと体力をつけるしかない。早く追いつけるように努力しなければと思った。田中さんはじめ、みなさまありがとうございました。

